



でらボラ NAGOYA 通信

2015 3.11

震災から4年。今いちど、ふりかえる時です。

被災された方々に、

私たちは、本当に寄り添ってきたのでしょうか。

潮の匂いは。

片平 侑佳

潮の匂いは世界の終わりを連れてきた。僕の故郷はあの日波にさらわれて、今はもうかつての面影をなくしてしまった。引き波とともに僕の中の思い出も、沖のはるか彼方まで持っていかれてしまったよつで、もう臆気にすら故郷の様相を思い出すことばできない。

潮の匂いは友の死を連れてきた。

冬の海に身を削がれながら、君は最後に何を思ったのだろう。

笑顔の遺影の口元からのぞく八重歯に、夏の日の青い空の下でくだらない話をして笑いあつたことを思い出して、どうしようもなく泣きたくなる。

もう一度だけ、君に会いたい。

くだらない話をして、もう一度だけ笑いあつて、サヨナラを、言いたい。

潮の匂いは少し大人の僕を連れてきた。

諦めること、我慢すること、全部まとめて飲み込んで、笑う。

ひきつった笑顔と、疲れて丸まった背中。諦めた。我慢した。

“頑張れ”に応えようとして、丸まった背中にそんな気力がないことに気付く。

どうしたらいいのかが、わからなかった。

潮の匂いは一人の世界を連れてきた。無責任な言葉、見えない恐怖。

否定される僕たちの世界、生きること否定されているのと、同じかもしれない。

誰も助けてはくれないんだと思った。

自分のことしか見えない誰かは響きだけあたたかい言葉で僕たちの心を深く抉る。

“絆”と言いながら、見えない恐怖を僕たちだけで処理するように、遠まわしに言う。

“未来”は僕たちには程遠く、

“頑張れ”は何よりも重い。

お前は誰とも繋がってなどいない、一人で勝手に生きる、何処かの誰かが遠まわしに言っている。

一人で生きる世界は、あの日の海よりもきつと、ずっと冷たい。

潮の匂いは始まりだった。

潮の匂いは終わりになった。

潮の匂いは生だった。

潮の匂いは死になった。

潮の匂いは幼いあの日だった。

潮の匂いは少し大人の今になった。

潮の匂いは優しい世界だった。

潮の匂いは孤独な世界になった。

潮の匂いは――。

最近の活動報告

【非常時、お寺では？

—第2組推進員養成講座(実践研修)—

日時 2015年3月4日

会場 善重寺(知多市)

「非常時、お寺ではどのようなことができるのか」をテーマに、名古屋教区第2組「推進員養成講座」(第4回)の実践講座が開催され、多くの門徒さんとお寺さんたち、そして私たち「でらボラ」有志が参加しました。

「でらボラ」では、お寺で、豚汁を作り、ハイゼックス※のご飯を提供しながら、災害時のお寺の役割を考える試みを行っています。

今回は、お同行の皆さんとお勤めして、語りべ法話(震災を通した仏様の教えの話)、炊き出しも皆で一緒に実践しました。

ひとり一袋ずつハイゼックスのご飯の準備をしてもらい、豚汁をああでもないこうでもないと言いながら和気あいあいと作り、美味しく楽しく食べて、語り合えました。

また、実際に災害が起きた時のことを想定して、洗い物など、水を使う時には極力は貯水タンクの水を使い、豚汁の材料は参加者の持ち寄りでした。

災害時を想定しながら皆さんと一緒に作業することで改めて気付くことも多く、参加者それぞれのお寺での「備え」はどのようなか、そして自分はどんな「動き」ができるのかが、現実的な課題となるいい機会でした。

※ハイゼックス：包装食袋を使った炊き出し。(報告者：田島 晶)

【フォーラム環境 寺子屋かんきょう講座に参加】

日時 2015年2月20日(金)午後5時~7時

会場 名古屋教務所 議事堂(1階)

現代の環境問題、今回は原発問題を取り上げ、「放射能を生きる~私にとって原発とは…?」をテーマに話し合いました。「でらボラ」から3名が参加して発表を行いました。

私は、「それぞれが学びを外に向けて伝えていく『発信者』となること、そしてひとつの結論を守るのではなく、絶えず意見交換をして結論を塗り替えていくことが大切なのではないか」と発表しました。

他の方からの発表では、「今を生きていますか」と呼びかけられ、また、原発の問題に正面から向き合って自分の姿勢を決められたお話などから、たくさんの学びと気づきをいただけた講座でした。(報告者 大谷津 まり)



「語り部法話」をお聞きして、



災害時を想定した「炊き出し」!



楽しくいただき、語り合いました。



お父さんたちもエプロン姿で、生き生きしています!



講師の張偉(チャンウェイ)さんのお話のあと、



「でらボラ」から、原発問題から問われていることや、わかってきたことを、報告させていただきました。